

二〇〇五年四月二十七日にエスタブルック小学校で起こった出来事*註1は、偏った「価値観」、つまりイデオロギーによって大きく歪められた形で全国に伝わった。

その発信源である宗教保守団体「Article 8 Alliance」による事件の「真実」(truth)である。

「デイヴィッド・パーカーは、彼の息子が通う小学校で、学校の同性愛カリキュラム教材に異議を唱えるために校長と町(S)Director of Education(*註2)と会合を持っていた途中、不法侵入罪で逮捕された。パーカーは、息子の幼稚園のクラスでの同性愛カリキュラムや大人による(同性愛に関する)臨機応変のディスカッションを(彼ら両親に)通知し、息子のそれらへの参加を拒否する選択権を求めていた。彼は数ヶ月に及ぶ(学校との)対話で繰り返し『それは不可能』と申し渡され、ついにこれが解決するまで会合を立ち去らないと言った。逮捕後、彼は拘留所を一夜を過ごした」

本

「Article 8 Alliance」は、パーカーのことを「行き過ぎた性教育からわが子を保護したい」という純粋な要望を持つ親のシンボルとして描写し、彼は「人の性に関連する事柄を教室で教えるときには親に通知しなければならず、親はその授業のあいだ子供を教室から離れさせることを選べる」というマサチューセッツ州の法律に準じた親の権利を行使しようとしただけだと伝えている。また、エスタブルック小学校と学校関係者は、法で保護されている親の権利を無視する左よりのイデオロギーに偏った集団として描かれている。

バトルグリーン／連載エッセイ 7

渡辺 由佳里

BATTLE G

エスタブルック事件の真実

タブブルック事件をインターネットで調べたとしたら、これが《真実》だと信じるに違いない。

本

だが、レキシントン公立学校の保護者が中心になって結成された「Lexington C.A.R.E.S.」とレキシントン公立学校教育長とレキシントン警察長の共同声明による《真実》は、似ているようで根本的な部分が決定的に異なる。

まず、宗教保守派とパーカーがやり玉に挙げられている「同性愛カリキュラム」と「性教育」とは、先月号で説明したとおり、「Who's in the family?」という絵本の「ことば」である。他民族の家庭や母子・父子家庭、外国からの養子、同性の両親といった多様な家族を平等に紹介しているだけの本を「同性愛カリキュラム」と呼ぶのは誇張というより創作である。また、彼らが意味する「同性愛

プロフィール

わたなべ ゆかり・1960年兵庫県生まれ。京都大学医療技術短期大学部卒、同大学部専攻科修了。京都大学医学部付属病院に三年間勤務。その後ロンドン留学、日本語学校のコーディネーター、医療製薬製造会社勤務などを経験。2001年、『ノーティアーズ』で第七回小説新潮長篇新人賞を受賞。2003年、二作目『神たちの誤算』を発表。現在はボストン郊外レキシントン市で夫と娘の三人暮らし。翻訳やエッセイ執筆の日々を送る。

註1 下記の「エスタブルック事件参考サイト」、『たからまがじん』2007年10月号をご参照ください。
註2 「Article 8 Alliance」のサイトではこのように表現されているが、正しい役職名は「Director of Curriculum and Instruction for Lexington Public Schools (カリキュラムおよび教育指導長)」
※文中の固有名詞は新聞などですでに公表されており、ここでも実名を用いています。

エスタブルック事件参考サイト
【Lexington C.A.R.E.S.、レキシントン公立学校教育長、レキシントン検察長による共同声明】
<http://www.lexingtoncares.org/LPSPressRelease2005-05-02.pdf>
【Lexington C.A.R.E.S.による記事】
HYPERLINK "<http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html>" <http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html>
【Article 8 Allianceによる記事】
HYPERLINK "http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm" http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm

カリキュラムや大人による(同性愛に関する)臨機応変のディスカッション)には、同性の両親を持つ子供が教室で家族の写真や絵を紹介したり、家族についての作文を発表したりすることも含まれるのである。学校関係者がパーカー夫妻に数ヶ月にわたって何度も辛抱強く説明してきたのは、パーカー夫妻が「同性愛教育」と呼ぶアクティビティはマサチューセッツ州の法律が定める「性教育」には匹敵しないということである。また、このように小学校では日常のアクティビティのたびに彼らの息子を教室外に連れ出すためには追加の教員を配置する必要があり、現実的に実行可能ではない。それより教師たちが問題視したのは、「同性の両親を持つ子供が家族について語るたびに同級生が席を外すのを許可するのは、語っている子どもが家族が《普通》ではなく、差別してよいというメッセージを教師が子どもに教えるのと同じ」ということ

本
逮捕のいきさつについても真実は異なる。

パーカー氏が学校関係者と会合を持ったのは午後三時前後であり、その後彼が校舎から立ち去ることを繰り返し拒否したために午後五時二十分に私服警官が二人、午後六時に警部補が加わって説得にあたった。妻は説得に応じて校舎を去ったが、夫は学校を閉める時間を過ぎても立ち去りを拒否し「逮捕されないのであれば、私はこの場を去らない」「I'm not under arrest then. I'm not leaving」と警部補に宣言し、そのために六時二十四分に不法侵入罪で逮捕されたのである。

また「Article 8 Alliance」は、警察はパーカーが弁護士と連絡を取ることを許可しなかったと書いているが、説得の途中でパーカー氏は何度も携帯電話を使っている。相手が弁護士ではなかったのなら、いったい誰に電話をかけていたのだろうか？
その答えは、「Article 8 Alliance」のウェブサイトに載っている。小学校の前にパトロールカーが駐まっている写真には「会合の途中、デイヴィッド・パーカーを逮捕するために警察官が現れた」というキャプションが付いており、別の写真は、逮捕されたパーカー氏が警察の



建物の裏口から入る場面である。普通の親がわが子のことを相談するために学校を訪問したのであれば、このような写真が存在する筈はない。写真を撮ったのはパーカーが電話で呼び出した「Article 8 Alliance」のメンバーたちだったのである。

本

なぜパーカーはわざわざ逮捕されることを選んだのか？なぜわずかな金額の保釈金を払わずに拘留所を一夜を過ごすことを選んだのか？それについては、次回で詳しくお話ししよう。(次号につづく)